

地方自治体における情報システム（生活保護）の 標準仕様書改訂に向けた調査研究等一式

第2回監査WT（2023年9月6日） 事務局資料



Build Beyond As One.

第2回監査WT 次第

<日時・場所>

令和5年9月6日（水） 10:00～11:30 オンライン開催（Zoom）

<議題>

1. 監査WTの議題一覧
2. 監査業務のシステム化検討
3. 今後の監査WTの進め方

<配布資料>

- 資料1 【監査】第2回監査帳票WT 事務局資料（本紙）
- 資料2 【監査】都道府県・政令指定都市_監査資料作成項目整理表
- 資料3 【監査】実施機関_監査資料作成項目整理表
- 資料4 【監査】機能・帳票要件追加サンプル

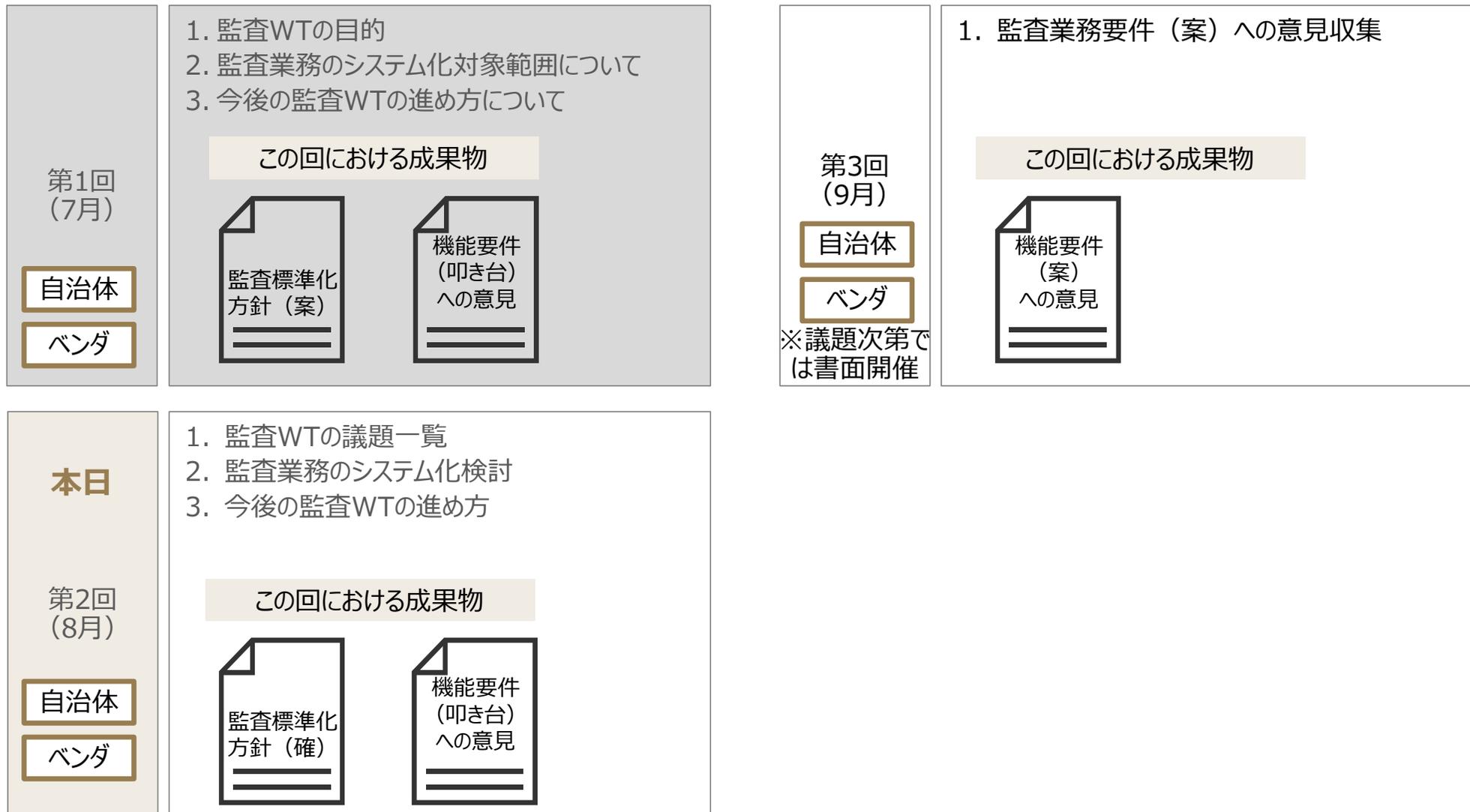
1. 監査WTの目的



1. 監査WTの議題一覧

1.1 監査WTの議題

- 本WTにおいては、7月から9月にかけて、計3回のWTを開催し、標準仕様書2.0版への改版対応を議論します（回数は現在の想定）。
- 本日の第2回WTでは、標準化する具体的な要件の検討を行います。



2. 監査業務のシステム化検討



2. 監査業務のシステム化検討

2.1 前回WTでの意見・結論の確認

- 前回のWTにおいて、自治体とベンダからそれぞれご意見を頂戴し、監査業務の標準化にあたっては、「監査自治体ではなく、被監査自治体の機能に焦点を当てて検討を行う」ことが望ましいという結論となりました。
- 前回WTの結論を受け、今回のWTでは具体的な被監査自治体の標準化可能機能についての検討を実施します。

前回WTの振り返り

前回WTでの 意見・結論	ベンダWTでの 意見	<ul style="list-style-type: none">✓ 現行では監査機能の実装事例はないベンダが多い✓ 業務負担が大きいと想定される被監査自治体で利用するEUC機能についても検討すべきである
	自治体WT での意見	<ul style="list-style-type: none">✓ 監査資料の登録機能は単なる入力機能であり、業務効率化に大きな効果はないと想定される✓ 被監査自治体側でEUC機能を用いて抽出したデータを取り込むなどの作業効率化が必要である
	前回WTでの 結論	<ul style="list-style-type: none">✓ 監査自治体ではなく、被監査自治体の機能に焦点を当てて検討を行う
今回WTでの 議題		<ul style="list-style-type: none">✓ EUC機能を用いた被監査自治体の業務効率化手段の叩き台を事務局から提示する✓ 叩き台について、被監査自治体の観点で効率化につながるか検討する

2. 監査業務のシステム化検討

2.2 標準化検討の方針

- 前回WT後、国の監査様式及び自治体WTで提供いただいた監査資料を突合した結果、どの自治体においても同一の国監査報告様式を用いて報告を行っていることが分析できました。
- 上記の分析結果を踏まえ、本WTにおいては「国の監査報告様式を出力する機能をEUC機能としてシステム化する」ことによって、被監査自治体の業務の効率化・負担軽減を図る方針で検討を進めることの是非について意見を伺います。

監査資料の分析結果

国の監査様式の分析

- ✓ 通知「厚生労働省による都道府県・指定都市に対する生活保護法施行事務監査にかかる資料の提出について」に監査報告様式が定められており、各自治体が同様の様式にて報告することが定められている

WT委員自治体の監査資料分析

- ✓ 国の監査様式にあたる監査資料一式については、各自治体間で同一の国様式を用いていることが判明した
- ✓ 国の監査様式以外の帳票については、各自治体で監査項目が異なっており、統一的な運用を行うことが難しいと想定される

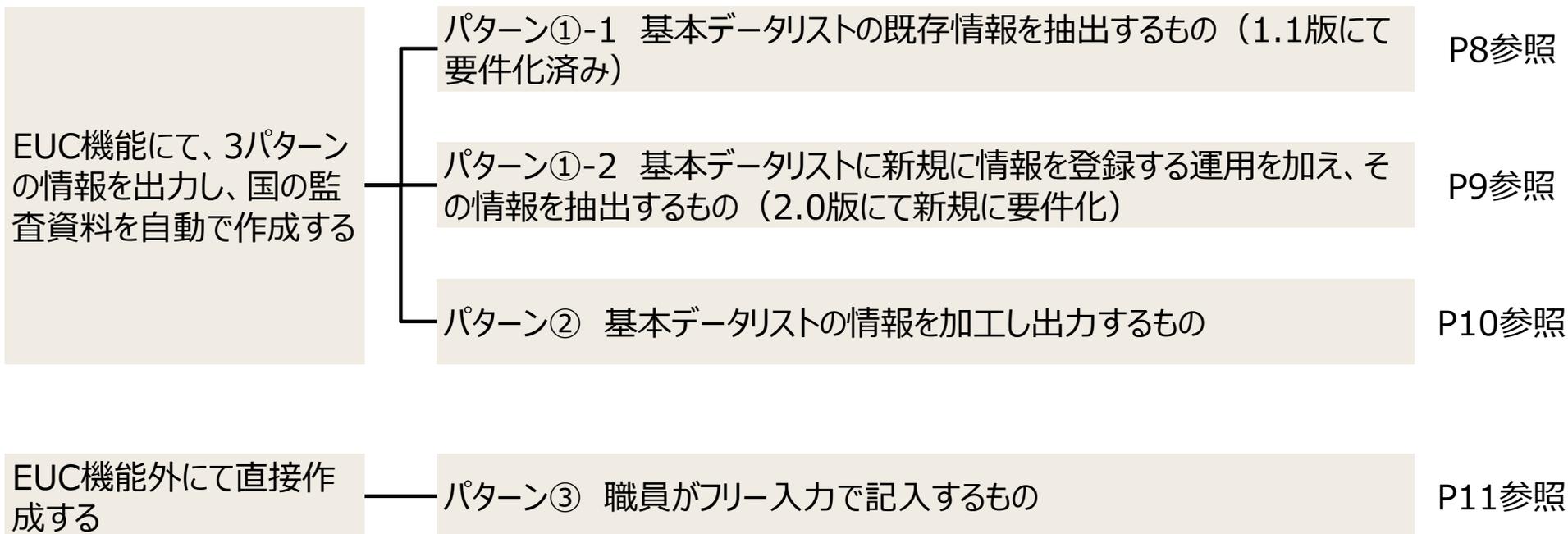
報告様式が定められている「国報告様式」を出力する機能をEUC機能として標準化し、業務の効率化・負担軽減を図る方針で検討を進める方針でどうか。

2. 監査業務のシステム化検討

2.3 EUC機能の実現方法（1/5）

- 前ページにて提示した「国の監査報告様式を出力する機能をEUC機能としてシステム化する」具体的な手段について、下記の4パターンの情報を出力することを想定しているため、次ページ以降にて具体的な実現イメージをお示しします。
- なお、今回ご提示している実装案については、どれか1つのパターンのみを実装するものではなく、データの性質に応じて4パターンのいずれかで出力・記入できるシステムを目指しています。

EUC機能の出力パターン



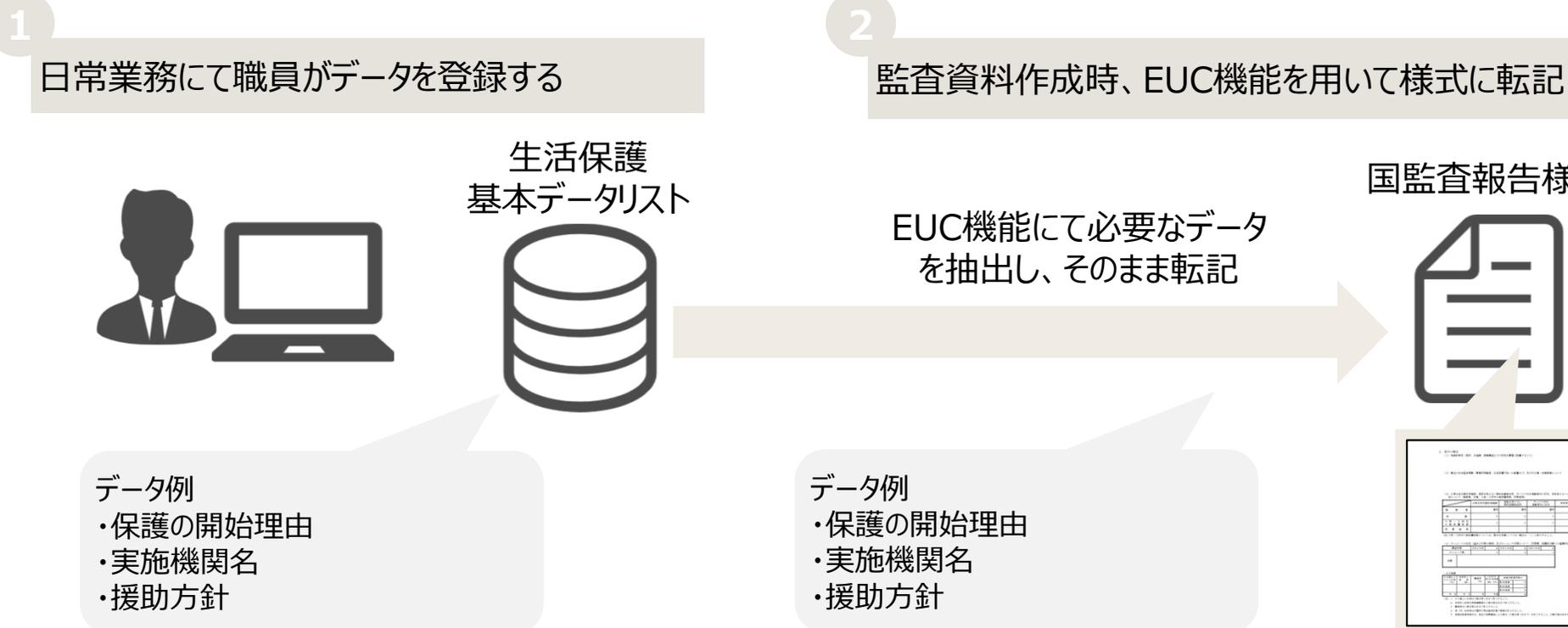
2. 監査業務のシステム化検討

2.3 EUC機能の実現方法（2/5）

- パターン①-1 基本データリストの既存情報を抽出するものについての実現イメージは以下のとおりです。
- 該当するデータとしては、「保護の開始理由」、「実施機関名」など、生活保護業務における基本的な情報が該当します。
- 本パターンに該当するデータについては、すでに生活保護システムに登録されているため、特段の追加登録等なく、監査様式の作成が可能であると想定しています。

EUC機能の出力パターン

パターン①-1 基本データリストの既存情報を抽出するもの（1.1版にて要件化済み）



2. 監査業務のシステム化検討

2.3 EUC機能の実現方法 (3/5)

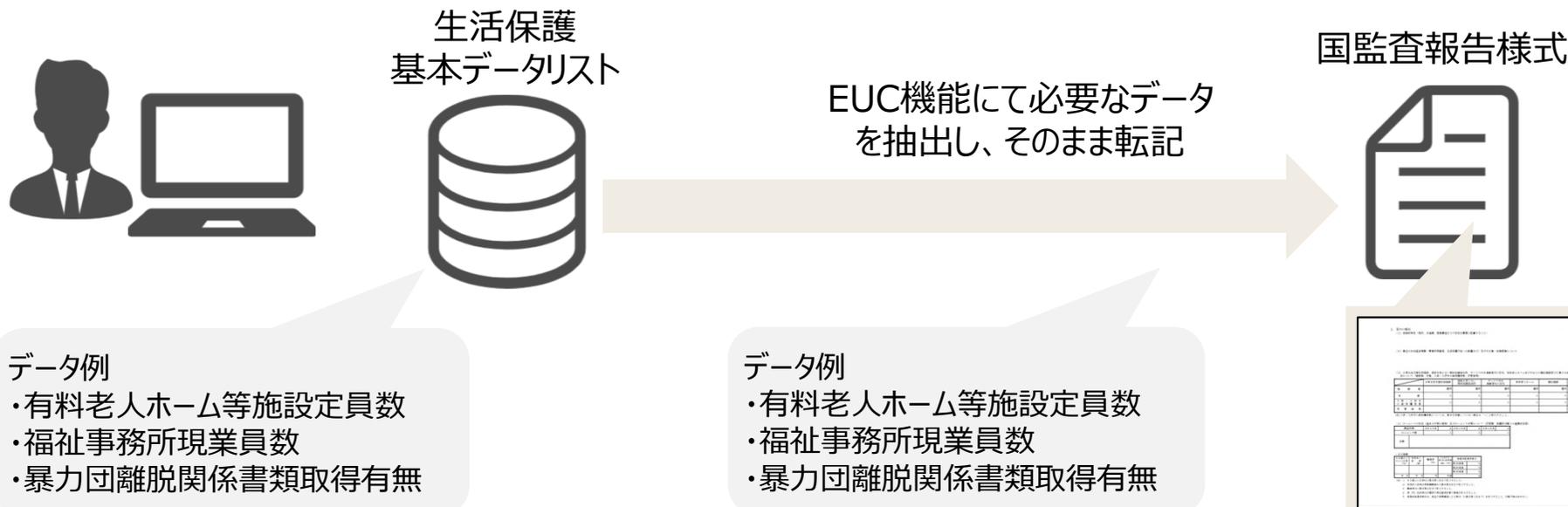
- パターン①-2 基本データリストに新規に情報を登録する運用を加え、その情報を抽出するものについての実現イメージは以下のとおりです。
- 該当するデータとしては、「有料老人ホーム等施設定員数」、「福祉事務所現業員数」など、監査を実施するにあたり求められる詳細な情報が該当します。
- 本パターンに該当するデータ約70件については、2.0版にて基本データリストに追加するよう、デジタル庁と調整を進める想定です。

EUC機能の出力パターン

パターン①-2 基本データリストに新規に情報を登録する運用を加え、その情報を抽出するもの
(2.0版にて新規に要件化)

1 日常業務にて監査に向けたデータを職員が登録する (2.0版より新たに発生する作業)

2 監査資料作成時、EUC機能を用いて様式に転記



2. 監査業務のシステム化検討

2.3 EUC機能の実現方法（4/5）

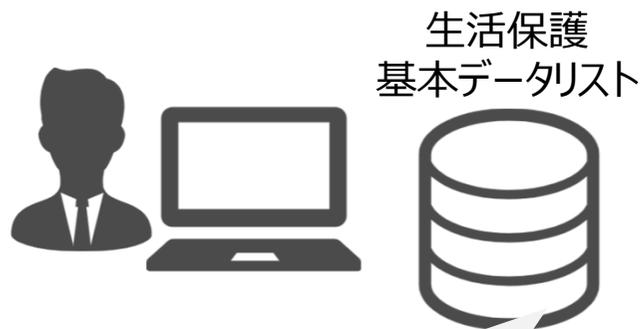
- パターン② 基本データリストの情報を加工し出力するものについての実現イメージは以下のとおりです。
- 該当するデータとしては、被保護世帯数などの合計値や保護率などの比率にあたる情報が該当します。
- 職員の作業負担を減らすため、可能な限り手作業が発生しないパターン③にて対応できるよう、フラグ等を基本データリストに盛り込めるように調整を進める想定です。

EUC機能の出力パターン

パターン② 基本データリストの情報を加工し出力するもの

1

日常業務にて職員がデータを登録する



データ例

- ・被保護世帯の情報（申請時入力）
 - －被保護者の人数
 - －高齢者世帯の該当有無

2

監査資料作成時、EUC機能を用いて様式に転記

EUC機能にて必要なデータを抽出及び
集計。その加工したデータを転記



データ例

- ・被保護世帯数
- ・保護率
- ・高齢者世帯構成比率

国監査報告様式



2. 監査業務のシステム化検討

2.3 EUC機能の実現方法 (5/5)

- パターン③ 職員がフリー入力で記入するものについての実現イメージは以下のとおりです。
- 該当するデータとしては、最近の社会経済情勢や根拠理由など説明自体にあたる情報など、データリストから抽出できない性質の記述項目が該当します。

EUC機能の出力パターン

パターン③ 職員がフリー入力で記入するもの

1

監査資料作成時、職員が直接入力（従来と同様）



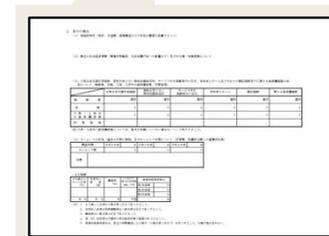
システムのデータベースに保存できない性質の記載を
直接入力して報告様式を作成する

国監査報告様式



記入例

- ・最近の社会経済情勢について
- ・過去3年間の保護動向の状況について



2. 監査業務のシステム化検討

2.4 監査業務の機能要件における確認観点（自治体）

- 前項で示した監査業務の機能要件および業務フローについて、下記の観点からご意見を頂戴したく、参加者にて議論を行います。

監査業務の機能要件における確認観点（自治体）

1. EUC機能

- ① 被監査自治体の負担軽減を目的として機能を設定しているが、負担軽減効果があると思われるか？
思われない場合、どの部分が問題か？
- ② 今回は被監査実施自治体の業務をシステム化しているが、監査実施自治体の業務について、標準化可能と想定される業務はあるか？
- ③ 国の法令通知からの項目を抜粋することで、被監査自治体の抽出項目をカバーしていると想定しているが、問題ないか？
(制度上の観点では別途厚労省に確認済みであるため、自治体運用の観点からの確認)

2. 監査業務のシステム化検討

2.4 監査業務の機能要件における確認観点（ベンダ）

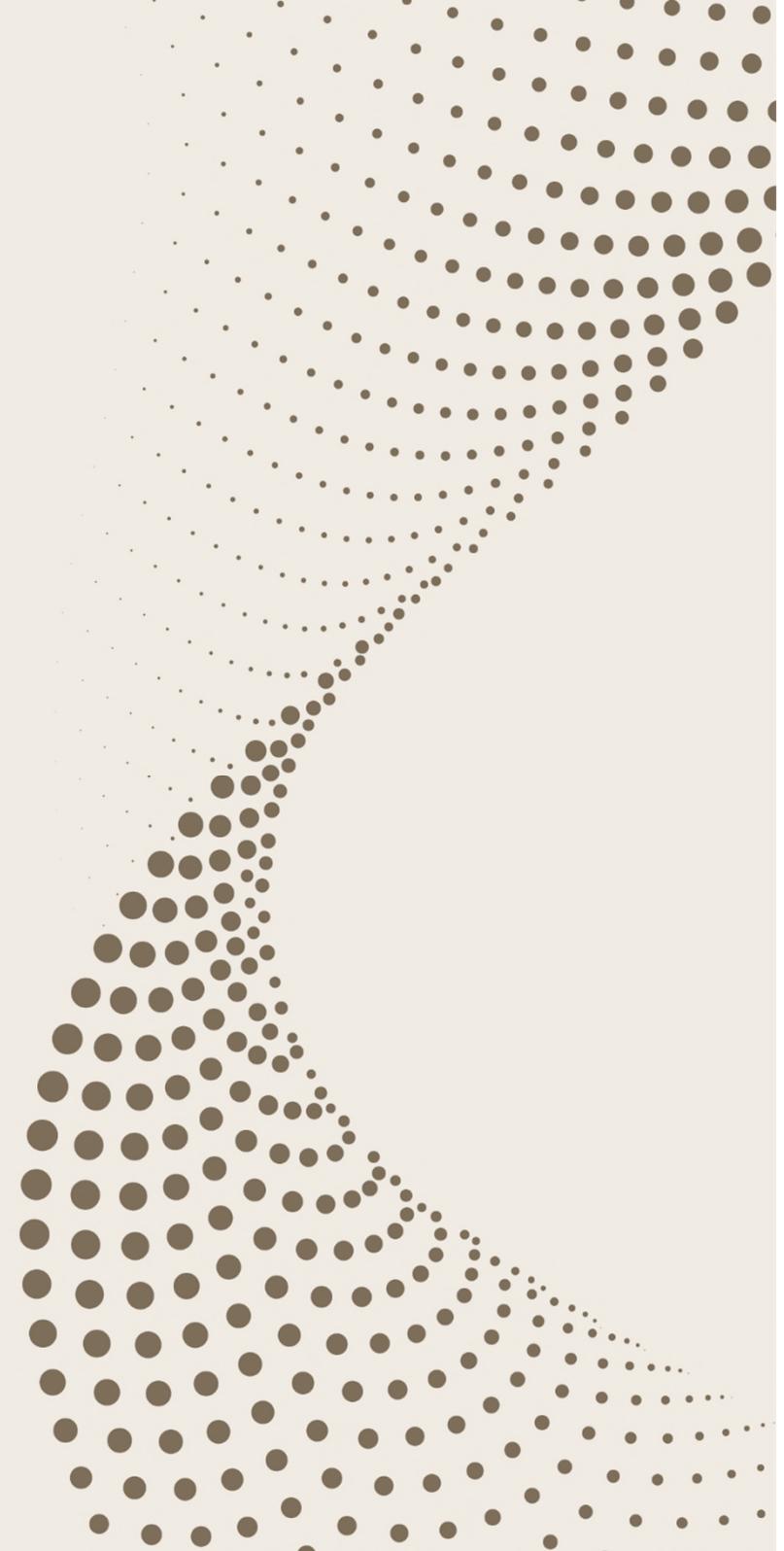
- 前項で示した監査業務の機能要件および業務フローについて、下記の観点からご意見を頂戴したく、確認を行います。

監査業務の機能要件における確認観点（ベンダ）

1. EUC機能

- ① 被監査自治体の負担軽減を目的として機能を設定しているが、負担軽減効果があると思われるか？
思われない場合、どの部分が問題か？
- ② EUC機能の実現イメージについて、技術上実現が難しい部分はあるか？
（特に、時点を指定するデータをEUC機能で実現することは可能か？）
- ③ ②に関連して、開発ベンダ側として、EUC機能の抽出項目テンプレートやデフォルト設定を定義することは可能か？
（職員のリテラシーに依存しない仕組みが実現できるか？また、報告様式の改訂があった際などに、抽出するデータセットを柔軟に変更する仕組みが実現できる余地があるか？）
- ④ 資料2の基本データリスト整理によりEUC機能を実装可能と想定しているが、不足している情報はありますか？

3. 今後の監査WTの進め方

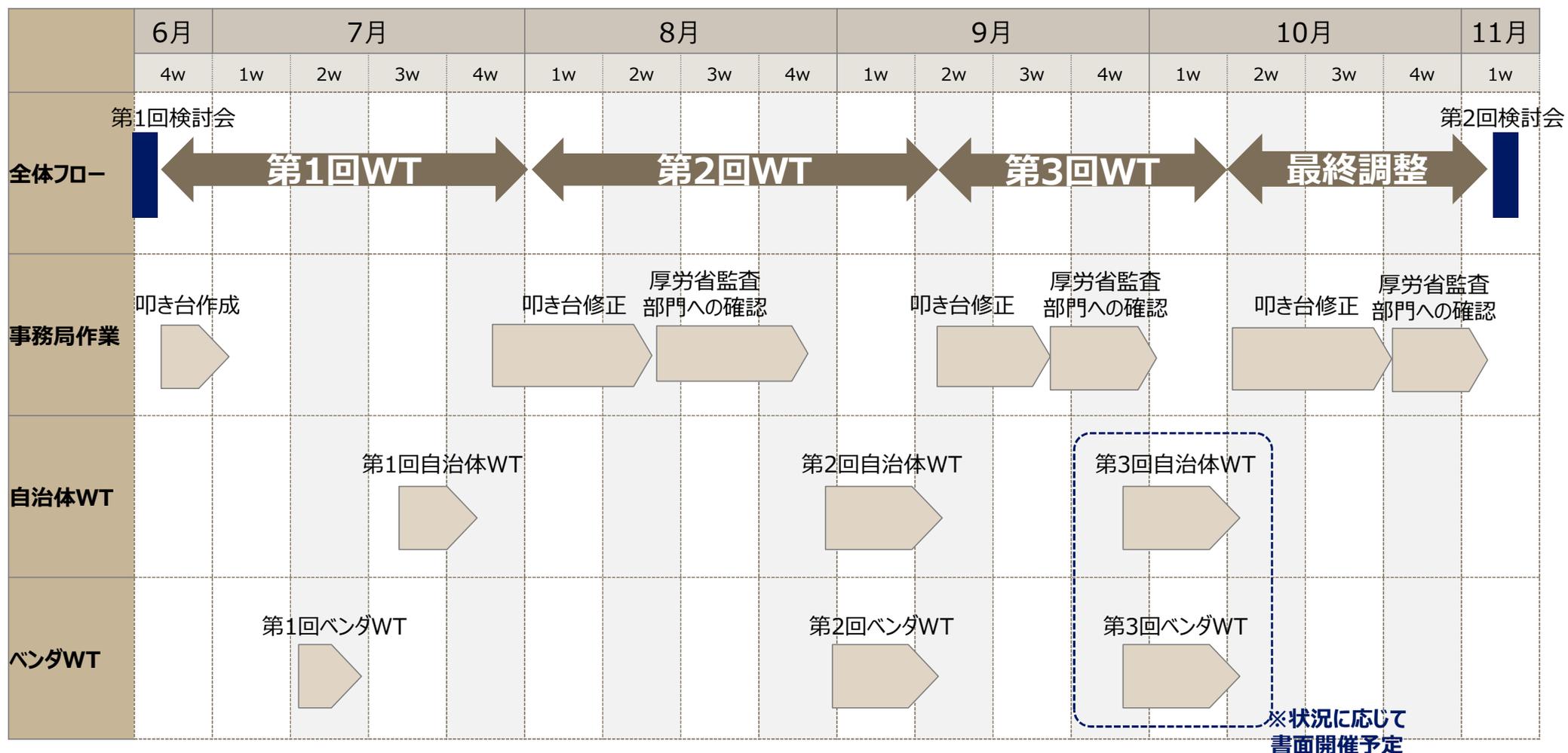


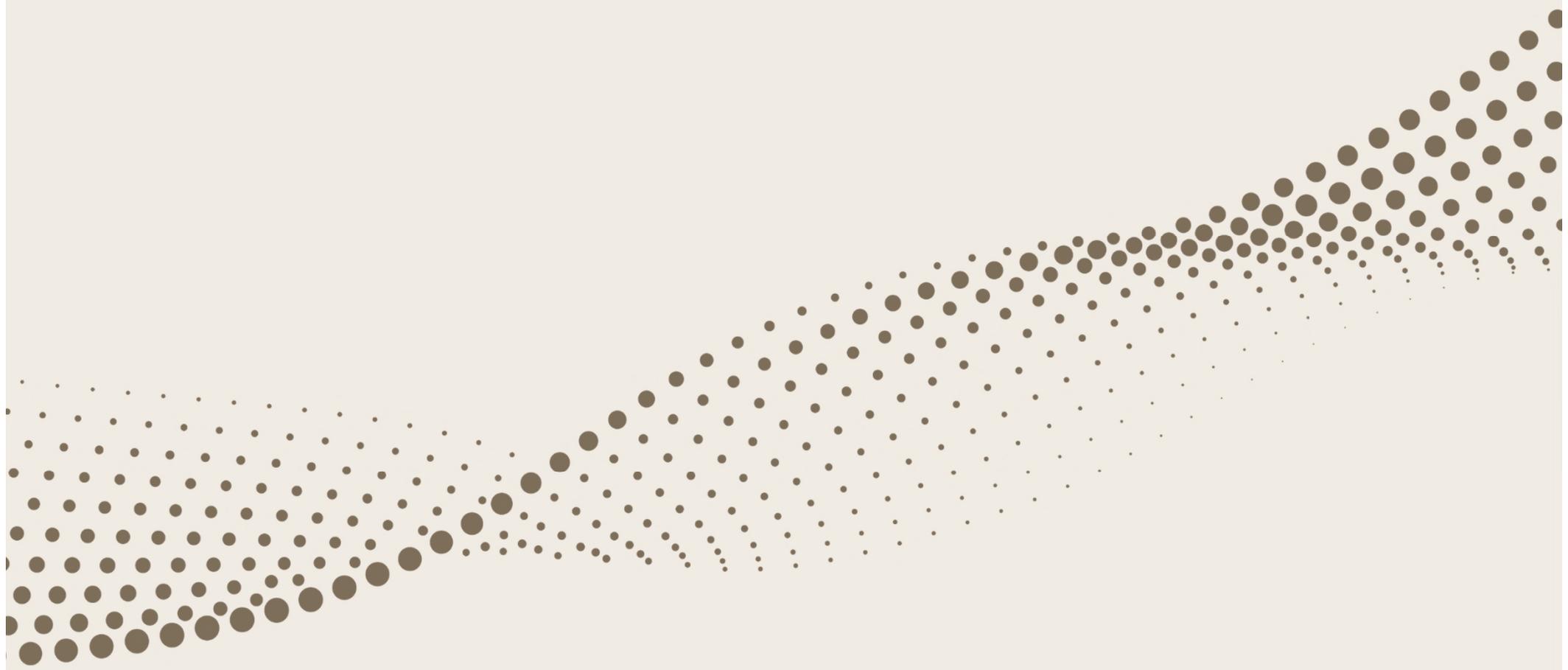
3. 監査WTの今後の進め方

3.1 WT（ワーキングチーム）の概観

- WTでの意見をもとに、機能要件叩き台を修正します。修正した機能要件を用いて、次回の監査WTで修正内容の妥当性について最終確認を行います。

監査WTに係る事項の実施スケジュール





アビーム、ABeam及びそのロゴは、アビームコンサルティング株式会社の日本その他の国における登録商標です。
本文に記載されている会社名及び製品名は各社の商号、商標又は登録商標です。©2023 ABeam Consulting Ltd.



Build Beyond As One.®